

清譜和合人

二編
上

中

13
3128
8



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words written in larger, more prominent characters. There are some small annotations or corrections written above or below the main lines of text. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The text is dense and appears to be a continuation of a document or a separate entry. Like the first page, it features some larger characters and small annotations. The overall appearance is that of a historical manuscript or a collection of handwritten notes.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

Small vertical mark or character on the left margin of the left page.





見世の通のらあうけぬとやうなる張言ハそれのひ
 のまがある土場との向の張言の強否の相事
 さんの西をうさき着替よみ和ハ見の妙張ごも
 歳一チ二ばづらちよひのり知あをわさくら
 ち張言ハシ知あひ物方ハ満ちく知あをらさ
 ねつがきくるらねんキハシ知あひあはらねん方
 和ハサク毎陀ツロをたうばとは續入たるい
 押込ぐあま風長髪包んぐおけよへト入押

張言ハそれのひ
張言ハそれのひ
張言ハそれのひ

一騎當千のつものおとらびと和ハイヤさらをく
 今日ち向の土場六が和ハシ知あひあはらねん方
 あま押込めんとし和ハシ知あひあはらねん方
 があるけやせん和ハシ知あひあはらねん方
 ひつと向ぐさんト和ハシ知あひあはらねん方
 楽ヤア和ハシ知あひあはらねん方

野のつ其つらつ遊具としてあふ歩みもあそびも
成りどハテナ。あんでも堆八とあつらふまじや
人ちびつちらん 和「そまでもちちげんよるる」菊
千と酒を呑ぐ 程後まごあめんさればちよふこ
んごごらるまふでいりー 夫「た指サそまふらさ
まの堆八るんぞと」あ思ひ付をさつ「うやうやい
ません」 夫「こやうく」ナヤ「テそまてやうはら
子里八らちらんぞあまこ」やアそまつらうとあ

ねん〜 時を楽にひたしてさつとまじらふ〜
さつとせふ〜 ちよくお其の子。イヤはあそび
まお指へ〜 ちよあそびん子 夫「そまアそめるの
たはあそびのあひさる顔色を〜 ちよの
土場ちがまへ〜 押さへまじらふ〜 ちよとさつと
外もあそび〜 夫「こやうく」 夫「そまてやうはら
うら〜 ちよとあそび〜 ちよのあそび。ア〜 ちよとさつと
も年給の田趣向イヤとあそび〜 夫「そまてやうはら
あそび〜 ちよとあそび〜 ちよのあそび。

コヤウキナク

七

九折るら。もうぴららでんね入ト 夫端をさへは張ま

後やーますト 張まハ じやうけひんるまをいひた

アままとヘイゴとてとちこー玉 ハテとれはハ

あさぐさうイヤてうと知次布をぬもあさぐさ

四ツあふふ層換を上げむ 張まハ 七テとれハ丁

よの折ららうと二ツぶくろんふく集らうらト 張ま

「イヤ、見痛どん四若帯知次布さんとの夫端

も四つあふふ層らうらとららへ上らうらく

九折るらと下あまート 張まハ 七テとれハ丁

先刻ハ四の紙のちひ三日月見の四其と母ら

下さるやうくあさぐさは合るらと提灯を借

移ハヤもたすまで日月の移をヤ人ハごうりませぬが

是ハ折と深くはまのしをヤてもよろらうとぞん

まゆあさるとあふまを辰初日のいひめくう

おまはごあがらうらうらあさぐさ 張まハ 七

つまらなナ 一 九折るらと下あまート 張まハ

九折るらと下あまート



まのこまへ。おせんさまへ 和^わ二^にまへく^く 作^しみま^まご^ごが^が心^{こころ}

ま^まし^しく^く 張^{ちやう}ま^まさ^さの^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ 張吉 ^へま^まく^く 何れもあつてから

也^{この}夜^よ後^ご中^{ちゆう}ま^まの^の下^{した} のりこゑ ^ホハ^ハテ^テ 外へあつて

ト うへへあつて ^張ま^まの^の下^{した} 張吉 ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

娘^{むすめ}の^のこ^この^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

ま^まの^のこ^この^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

ま^まの^のこ^この^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

おのこ^{この}の^のぬ^ぬち^ちを^をた^たへ^へ おせんさまへ ^ハま^まの^の下^{した} のりこゑ

本は...
 日...
 報...
 日...
 報...
 日...
 報...
 日...
 報...
 日...
 報...

一本のしるしを掲げ



葉
 葉
 の
 花

